

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.26 2009.10.31



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://www.kikusui-net.jp>

赤い羽根共同募金始まる



赤い羽根
共同募金

10月1日▶12月31日

全国一斉に「赤い羽根共同募金」が始まりました。

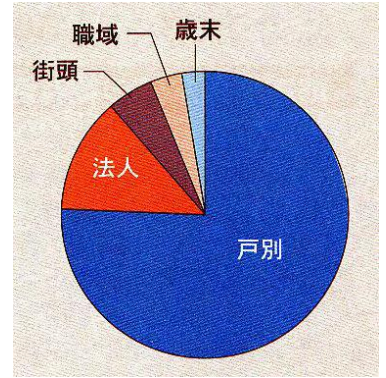
菊水地区では、10月1日に民生・児童委員さんが五つのグループに分かれて、街頭に立ちました。マックスバリュ菊水店、スーパーアークス菊水店、それに地下鉄菊水駅3番出入口の3箇所
で街頭募金活動を行いました。

民生委員のグループのほか、老人クラブの皆さんたちや、保護司会菊水分会の方々が参加されました。保護司会菊水分会は東札幌ダイエー店前で募金活動を行いました。募金活動に参加された方、ご苦勞様でした。又、募金にご協力いただいた方々、有難うございました。



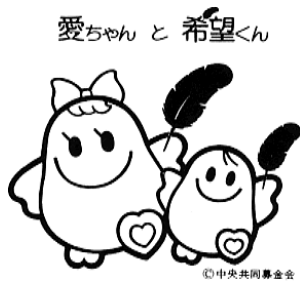
昨年の札幌市の募金実績は1億 1,750万 1,078円でした。

共同募金は、事前に使い道や集める目標額を定め、地域の福祉のための募金と配分(助成)に関する計画をたてて行われます。募金の方法は、**戸別募金**(各世帯から寄せられる募金)、**法人募金**(企業・商店・病院から寄せられる募金)、**街頭募金**(街頭で通行人から寄せられる募金)、**職域募金**(職場や地域団体から寄せられる募金)と**地域歳末募金**で構成されています。(右の円グラフを参照してください)



共同募金は地域の福祉活動に役立っています

昨年、白石区に配分された共同募金配分金は、613万余円で、団体ごとの助成金の配分状況は別表のとおりでした。



白石区社会福祉協議会
菊水地区福祉のまち推進事業などに使わせていただいています。

白石区 13団体 19事業 6,131千円

団体等	助成事業内容	金額
NPOら・しく 地域活動支援センターぼるか	車両購入	1,050,000
NPO Re~らぶ 地域活動支援センターRe~らぶ	複合機購入	320,000
白石区老人クラブ連合会	世代間交流 広報紙発行	200,000 213,000
白石おもちゃ図書館	おもちゃ図書館運営	160,000
白石区社会福祉協議会	区内社協活動の活性化強化・支援 移送サービス	797,600 200,000
	区・地区福祉のまち推進センター活動交換会	100,000
	区社協だより発行	65,000
	地区社協活動助成	1,328,000
	ひとり暮らしのさわやか集い	80,000
東白石地区社会福祉協議会	葉書ふれあいメッセージ・広報紙ふれあいネットワーク・日赤チャリティ招待	90,000
東札幌地区社会福祉協議会	社協広報紙「おもいやり」発行	100,000
菊水地区社会福祉協議会	高齢者のふれあい交流会	90,000
北白石地区社会福祉協議会	ふれあいの集い開催	80,000
北東白石地区社会福祉協議会	交流の集いふれあい音楽会	80,000
白石東地区社会福祉協議会	独居老人さわやか交流会	85,000
菊の里地区社会福祉協議会	広報紙発行	85,000
白石区共同募金会	募金活動推進	1,008,000

黄色いレシート回収ボックス設置

イオングループのスーパーマーケットでは、全国的規模で「幸せの黄色いレシート運動」を行っています。毎月11日をイオン・デーとして、お客様に黄色いレシートをお渡し、お客様の自発的行為で回収ボックスに投函していただいています。そうして、このレシートの売上げ金額の1パーセントを回収ボックスの団体に寄贈し、その団体の活動のために使ってもらおうという試みです。



「よつクロ20号」でお知らせしましたように、東札幌のイーアス内のマックスバリュ店には、既に菊水福祉のまち推進センターの投函ボックスが設置されていますが、マックスバリュ菊水店(菊水2条2丁目)には今まで設置されていませんでした。この度、菊水福祉のまち推進センターの要請を受けて10月から回収ボックスが設置され、初日の11日には早速「黄色いレシート」が投函されていました。菊水地区の皆様、来月からもご協力をお願いします。



黄色いレシート投函箱



設置に協力された田村支店長

個人情報保護法に対する誤解と過剰反応

最近、私たちのまわりで何かにつけ個人情報に触れるから…と言う会話を耳にする事が多いようです。その結果、①学校や自治会における緊急連絡網などの作成や配布、②災害時要支援者リストの共有、③民生・児童委員との情報の共有などなど、対象者の利益になる情報の開示までもを自粛する傾向が見受けられます。

過日、「個人情報保護法の取り扱いを知る～地域での共有～」の研修会に参加致しましたが、そこで、一般的に個人情報保護法の内容をよく知らないために、それに過剰反応したり、または誤解したり、ネガティブに個人情報の保護を解釈している方達が多いことを教えられました。

今、市民生活の安心・安全を保つためには、「独居高齢者の孤独死」の防止や「要支援者に対する災害時の支援」のための対象者リストの作成や利用が急務と考えられています。しかし、殆どの地区では個人情報保護法や守秘義務が壁になり、リストの作成が遅々として進まないのが現状です。

その中であって、東区や西区では、民生委員の方が福まちのリーダー的立場になり、「災害時要支援者」のマップ作りを主導し、町内会

活動と協働してそれに成功した例があります。そのきっかけは、全国民児協の全国一斉活動方針である「災害時一人も見逃さない運動」であり、活動の原点は、今後、高齢化がますます進むと、その運動は現在の民生・児童委員の活動だけでは限界で、町内会に協力を求めることが不可欠であると気がついたからだそうです。「物事を前向きに考えれば、解決策は必ず見つかる」ということの、貴重な実例であると感じました。

菊水地区でも、要支援者のリスト作りやマップ作りが必要な状況に来ていると思いますが、これは各町内の皆さんが共通した認識を持ち合わせなければ難しい事です。まずは、「福まち」や「連合町内会」そして「単位町内会」で、リスト作りのための議論の輪を広げることが先決だと思います。

最後に、要支援者の情報の共有については、厚労省の通知に「本人以外の者に保有個人情報を提供することが、明らかに本人の利益になると認められるとき」と、情報保護の解除条件が書かれています。それぞれの関係者が要支援者の情報の共有が誰のためになるかを考えれば、自ずと道は開かれるのではないでしょう。 (福まち事務局長 佐藤 剛)

GH地域運営推進会議

10月28日午後2時からグループホームハートの家伍番館で地域運営推進会議が行われました。この会議は地域に点在するグループホームの運営を地域に開かれたものにするために行われています。行政の指導により2ヶ月に一回実施されています。会議といういかめしいネーミングが付けられていますが、会議の構成員は施設代表・包括支援センター担当者・家族や利害関係人代表・地域の代表などによって行われます。

この日は、白石区第2包括支援センター宮崎菊水地区担当者、第三者後見人の石川司法書士、菊水上町連合町内会谷内山副会長、枝元よつクロ編集者、それに国柄施設長の5名で話し合いが行われました。最初に施設長から、最近の施設運営状況の説明があり、次にこのミーティングのテーマである「施設が地域に貢献できることとは何か」についてフリートーキングが行われました。





石川司法書士 宮崎さん
国柄施設長 谷内山さん

このグループホームは、昨年の4月によつクロ第8号で紹介しました介護保険による認知症対応型の施設で18名の利用者が生活しています。施設長は、現在の社会福祉法人パートナーが運営を始めてから4年目になり、地域の方々からいろいろお世話になっていること、特に冬の除雪についてはご配慮いただいていることに感謝しているし、今年も地域の夏祭りには数名の利用者さんが参加して楽しませてもらったなどと、地域との関係が円満に続いているとの報告があり、施設側から、地域にどんなお返しができるかを話し合っしてほしいとの問いかけがありました。

これに対しては、①認知症に対して地域の人たちの関心は高いので、日常介護に当たっているプロとしての経験を、地域の研修会を通じて教えてほしい。②認知症の介護について電話での相談にのってほしい。③施設の見学会をしてほしい、などの意見や要望がなされました。

最後に施設長から「介護にお困りの方は、いつでもご相談に乗りますので、お気軽にお越しください」との話がありました。
(谷内山編集委員)

連絡先 ハートの家伍番館 施設長 国柄 幸恵 電話 837-1321 Fax837-1325

孤独死について

よつクロ編集委員 関口和彦

先日、長い間地域町内会活動に貢献されたA氏が、突然お亡くなりになりました。隣にお住まいのご家族が発見したときは、お風呂場で亡くなっていたそうです。突然のご逝去には、残されたご家族の方々のお悲しみは計り知れないものがあると思います。

この方の場合、正確には孤独死には当たりませんが、(現在は孤立死とも言います。2週間どなたとも話しをしない状態を孤立状態と定義づけられています)いずれにしても、高齢社会にあって、誰にも見取られることなく最後を迎えなければならぬ人たちはこれからも多くなることと言わねばなりません。単身高齢者の多い菊水地区にあって、誰もが安心して老後の生活を送っていくことができる「福祉のまちづくり」に一層の努力を注がねばなりません。菊水まちづくりセンターでは、4年前に単身居住高齢者の調査を行い、「暮らしの安心トラの巻」を配布し、地域の見守り活動を続けていますが、これからも、なお一層地域全体でこのことを考え、地域の福祉活動の充実に努める必要を痛感しています。

日帰り旅日記

菊栄会会員 折原 正幸

今日は、我々老人クラブ菊栄会の日帰り温泉レクです。総勢22名まちセン前から迎えのバスで出発しました。幹事様よりの種々の説明があり、なごやかに談笑しながら車窓からの山々の紅葉を見ているうちに、定山溪温泉ホテルに到着です。昼食までの間各々入浴しました。

このホテルは、温度の違う浴槽・檜風呂・泡風呂・サウナ・露天風呂などがあり、ゆっくりと入浴し、日頃の疲れが取れました。会長の挨拶と乾杯でお待ちかねの懇親会が始まりました。楽しみのご馳走は、松花堂弁当風の豪華版で食べきれないほどでした。お酒やジュースなども沢山あり、女性の踊りは、日頃の練習の成果がでて大変お上手でした。帰りの車の中は、男性はほとんど居眠り状態で、目が覚めると

まちセンという幸せな一日でした。今度は、一泊旅行がいいなど勝手な要望が出ていますが、幹事様お疲れ様でした。



編集後記

発行が遅れたのは、日ハムのせいではありません。今月号は編集委員全員の合作にしようと決めたからです。なれない原稿に苦闘して出してくれた委員に感謝します。少しは苦勞がわかってくれたかな。
(枝元編集員)